

186-0003 東京都国立市富士見台 3-6-404  
tel/fax 042-574-8694 ・直 090-2332-4408

## まどい編集室

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/  
mal: madoi30s@ce.mbn.or.jp

第192号

**古希祝い特集**

秋田県羽後町仙道中学校昭和30年卒

### 「としとらんど」で

## 古希を祝う

高橋孝之助



賑わう二次会の様子、外は闇夜です

平成二十年九月十九日(金)、かねてより予定されていた我々の古希の祝いが地元五輪坂「としとらんど」で開催されました。当日参加者二十名女子十名男子十二名でありました。そのうち県外者六名地元十六名。この日南の方から台風十三号が接近中であったが、ここ秋田は素晴らしい好天に恵まれ、参加者全員ホッと胸をなで下ろしたものでした。開催時間十八時に向かい三々五々、メンバーはロビーに結集。全員の顔がそろったところで笑顔の挨拶。

「あらー大きくなったぞー!」  
「まんち部屋さいぐべ」幹事の号令いっかゾロゾロと指定の部屋へ……残念にも?男と女の部屋は別々であ

- 一、黙祷(不幸にして先立たれた同級生のご冥福を祈る)
- 一、実行委員長挨拶(飯塚和雄さん)
- 一、日程などのお知らせ
- 一、乾杯(小沼喜代雄さん)

**開宴**

大広間にはすでに沢山の料理が載せられたお膳が並んでいる。席は各人好きなのところに座った。ウジで決めたも良かったかなと後で思ったことである。やがて幹事長宗夫さんの開会宣言、式次第の紹介。



昔 お日は 少女だった!

このときで近所に不幸があり、参加が遅れると言っていた行さんの登場である。人気者の行さんの登場に全員の拍手です。この方もまた

る。荷物を置きホッとてメンバーの確認である。何となく照れた顔が嬉しい。

「とりあえず湯っこさえぐど」またしても幹事の号令でいざ風呂へ……風呂から出るといよいよ定刻の十八時宴会時間である。そろって三階の会場へ……



実行委員長 挨拶

一、余興(阿部アイさん提供西馬音内盆踊り)

一、お開き

**飛びかう 秋田訛りと漬け物**

乾杯が終わると同時に堰を切ったようにビールと酒の銚子が行き交う。「どっちだ?酒?マ?ビール?」どっちでもいいよ!はやく注げ!だど。

宴もたけなわになってくると、やっぱり居た!宴会ジャックである。今回は柴田友幸さん、鈴木トモ子さんである。この二人のお陰でどれほど場が盛り上がったことでしょう。笑いの合唱が一つになって居る。以前の同級会、勝太郎さん、宇之助さん、文字さんこの三人に負けず劣らずの奮闘ぶりであった。





場づくりの名人である。また一段と盛り上がるのであった。そしてもう一人遅れてきた人、ケンコこと豊島健一さんでした。本当に久しぶりで。四十二の厄払いの時、お寺にお参りするバスを運転してくれましたね。とても若々しくハンサムです。そしてもう一人どうしてもお知らせしたいのは、佐藤芳雄さんであります。いろいろ都合が悪くどうしても参加は無理と言っていた彼が明日という前の夜、宗夫さんに参加したいと電話して急遽電車に飛び乗ったと言っています。奥様の体調が今

一ということでしたが、子供さん達が、心配ないからお父さん行ってらっしゃいと言ってくれたそうです。ドタキャンということの良い聞きませんがドタ参加は初めてですよ。そればかりでなく芳雄さんにとっての同級会は、「まどい」と共に人生をかたむけたと言うほどの意味もあると思われるだけに、そのことを子供さんもわかってくれたと言うことでしょう。良い子供さんを持って幸せですよ、ヨシオさん。

## 朝です

あつーいです。

枕が替わると眠れない私は一睡も出来ず、ただいびきと寝言のハザマで生きた心地もせず夜が明けてしまいました。一晩中クーラーですよ。秋田の秋に……窓のブラインドを上げると目も眩むような朝日です。思わずもう一度ブラインドを下げたり……。五時です。

枕が替わると眠れない私は一睡も出来ず、ただいびきと寝言のハザマで生きた心地もせず夜が明けてしまいました。一晩中クーラーですよ。秋田の秋に……窓のブラインドを上げると目も眩むような朝日です。思わずもう一度ブラインドを下げたり……。五時です。

昨夜の宴の面影が廊下に並んでいます。ビール。お銚子、



灰皿、つまみの残り。誰か銚子を振って中身を確認している人がいた。トクトクと杯に「うっ！」と言ってクイー。ついに両手に持って部屋に。アンタには負けたよ！。



## そして 生まれ在所へ

二十一日日曜日。この日は三輪の兄の家から実家に向かう。考えてみるに昨年秋も秋田に帰っていたのだ。兄弟姉妹、義姉、甥など七人が病氣入院騒ぎで、見舞い旅行をしたのだ。

今回は気分が違う。久しぶりに爺様、両親の墓参りをゆっくりとしてこよう。線香、花などを準備していったがそれは考え過ぎだった。実家ではすっかり準備してくれていた。兄たちとご先祖様に手を合わせてきた。この日も暑かった。屋ご飯をこち

(写真のほしい方は連絡下さい。代金は 取りませんから安心を！)



そうになっても汗タラタラである。だから又ビールが美味しいのだ。三時間話し放しである。何を聞いて、何をしゃべったか定かでないが声がかれていたのである。

その夜は、次兄の家に泊まる。これも結局は十一時まで飲んでしゃべって終わる。翌朝、窓から外を見ると、田んぼ、山一面に霧が降りて、まるで墨絵のようだ。久しぶりにゆったりと田舎を満喫した気分だった。

今日はわが家に帰る日だ。午後四時五十五分の飛行機。それまでは時間もある。仙道をドライブしよう、と言うことで兄の運転する車で、ま



二次会、男子部屋にカラオケを持ち込んで

ずは上仙道方面に行こう。山崎、久保、山岸、西又、中村、楡山、色とりどりのトタン屋根。あそこの家は同級生の誰の家。あそこは空き家、など。祇園山、小学校の分校など。中村から山を越え、泉沢へ。ここも子供の頃行ったような気がする。

又美家の前を通過して、西の沢へ。芳雄さんの家を見てバック。堀之内、稲子さんの美家の前を通過。直子さんの美家の前通過。下仙道へ。中泊、新屋、草井沢、大倉、こちらも同級生が大勢いるナ。中山、黒坂さんが二人いたよナ。ずっと奥の方。永井さんが住んでいたネ。柵場へ、キンベとケンコ。畑へ。医者の家、正二、清、カネ子。そして、榎崎は初めて足を踏み入れた。風平へ。健治、養吉、滑川、真坂。小森出、地蔵院、ヨミ先生ご健在だそうナ。そっと手をあわせる、先に逝った仲間に。車窓から見える景色は、それは美しい。黄金のジュータン、向こうに山の緑、そして稲穂の上を飛びかう



50年前に口説いてほしかった〜

赤とんぼ。なんとというコントラスト！しばしうっとり。そして昼飯をいただき、いざ秋田空港にひた走り。長いようで短かった三泊四日は終わった。

ガタガタのプロペラ機に命を預けて中部国際空港に向かって飛び立ったのであるが、窓越しに見えた夕焼けもそれはきれいであった。

定刻、飛行機は無事滑走路に着陸したのである。手には汗びっしょり。

この年になって大学に通うとはたいしたもんだと俺も思う。かれこれもう2年生になった。俺だけかと思っていたら実は土田栄治君も同じ大学に通ったという。大学は大きいから知るよしも無かったが、去年は一緒だったことになる。

東大に入ったからと自慢してはいられない、良く周りを見ると同年代の人が沢山いる。これは頷ける。この年になると体のあちこちが傷んできて町中の塾では扱いきれないから、結局「大学」が相場の所に行くことになる。

栄治君は本人が身をもって頑張ることになったが、俺の場合は、女房にくっついての入学となったわけ俺は至って元気だ。なんの勉強をするというわけでもなし、ただ意識朦朧とする女房の傍にいてやりたいそれだけの話だ。それにしても最近の医療制度というのからヶ月になると退学させられる。出来がいい悪いの問題ではない。医療費の支給が半減するからだ。それが学校の都合だ。しかし学費もバカにならない。

本当は大学に通っているなどと冗談を言っている場合ではないのだが、余り重く捉えると思が統かない。だからあえて「俺は東大生」うっふんと言うところ！

## 俺は東大生！

(佐藤)





## 古稀を祝う会

平成20年9月19日 五輪坂温泉「トシランド」

この記念写真はすでに喉もしめらせ気炎の上がるうかどの時に、待ち人が現れみなさんそろったところで撮影したものです。カメラマンは柴田友幸さん。記念写真として参加者には配布されました。

それぞれがたいして変わっているわけでは無いのですが、久々に来てみるとさてあの人は・・・となります。現にお互いに尋ねあうという場面もありました。そこでこの写真から名前を拾って見ることにします。久しく同級会などに参加されないみなさんには大いに参考になることでしょう。

## 上段左から

高橋貞子・布川勝之助・武田龍太郎  
岩崎イネ子・高橋カネ子・佐藤芳雄

## 中段左から

土田栄治・嶽石セイ・村上ヨコ・小沼ツヨ・田中康子・柴田美智・阿部アイ・柴田友幸

## 下段左から

大友朝蔵・高橋孝之助・佐藤宗夫・鈴木トモ子・大友行・飯塚和雄・小沼喜代雄・豊島健一

## MESSAGE

今回は土田栄治さんです。彼は昨年心臓弁膜症の手術をしました。

「おれよーもうおわりかとおもったよ」とおどけた顔で語る栄治さんは同級会ではいつも人気者。飾りもおごりもさりとて引っ込んでいるわけでもない穏やかな栄治さんの好人物ぶりは誰も認めます。



今回は病氣のこともあり奥様同伴でした。その夜夕食後のクスリがないと靴をひっくり返して探していたが、ク

スリ持ちは彼だけでなくあちこちで広げられていました。

この写真を見るととても癒されます。とても大病と闘ったとは思えない穏やかで優しい暖かい顔をしています。いや大病を越えてきたからかも知れません。

みなさんいい顔をしています。特に印象を強めてくれました。まだまだまだ元気に過ごしてほしいものです。





20日朝、五輪坂「としとらんど」の前です。近い方で泊りでなかった方はおりませんが解散を前に友幸さんのカメラに納めて頂きました。日差しが眩しいこともあるのか、飲み過ぎ騒ぎ過ぎもあるのか、それでもみんなイイカをしています。とても七十歳を目の前にした連中とは思えないほどです。

折り畳み積み重ねてきたそれぞれの人生必ずしもその荷をおろしたとは言えないでしょうが元氣な顔を見せてくれました。

参加できなかったみなさんもそれぞれ同じ顔をしているだろうと思います。体の不都合が、まだ仕事が、家事用事がとそれでも人生節目の会でもあり、みなさんに会うことが出来たらと思わずに折れません。

地元の一人佐藤正二さんは、今体調が悪く伏せておられると聞きました。ここに参加されたみなさんも、おやつみたいなものだとかやはり沢山のクスリを持参でした。また後日には高橋みちさんが入院されたとのニュースも入ってきました。陰ながらお大事にと祈っています。

解散前の写真です、みな様どうぞお元氣でお暮らしてください。

## note



こちらは武田龍太郎さん。同級会で会うたびに彼の屈強な体と飲みっぷりに圧倒されます。いっぞやは姿が見えず探したら

風呂場にいました。一物を天井に向けて豪快な安楽です。やることが半端じゃない。今回も「飲んでばかりいないで少し食いなさい」というと「これはみんな持ち帰るんだよわっはっは」

彼のその屈強な体は仕事にあると自分でも言う。「俺は自然の中で仕事をしているんだ！」地球の修理工とまでは言わないけれど、古希にして林野で現役の彼らしい豪快さです。

時には「俺はこのみんなと同級生で良かった」と神妙な事も言う。男でもほればれとする男です。豪快な飲みっぷりは誰もかなわない、それでも元氣なのはやはり日の下で体を使って働いているからなのでしょう。それでも今年いっぱい辞めるつもりだと漏らしていました。龍太郎さんにも勝てないものがあると言うことでしょうか。



## 師匠の古希を祝って



「古希を祝う会」当日頂いたプログラムには、余興として「阿部アイさん提供西馬音内盆踊り」とありました。これまでのアイさんの参加する同級会ではいつもこの踊りを披露してくれます。

今回は特別にステージで本格的に衣装をまどいの踊りを見せて頂きました。

この方々は、阿部アイさんに師事する「編み笠作りのお弟子さん達」だそうです。

盆踊りの編み笠とアイさんについてはこれまで「まどい」でも何回か紹介されましたが、現在町の観光事業の大きな目玉となっている西馬音内盆踊りの「編み笠」を作る人は阿部アイさんただ一人という状況だと言うことです。そのためにはもとより県でも貴重な人材とその功績をたたえていました。

アイさんがこの技術を習得するまでの逸話も以前に「まどい」で紹介しましたが、その当時も年老いたご婦人がただ一人の作り手でした。教



8月の盆踊り当日です。

ベントに出かけ、西馬音内盆踊りを披露する活動をやっておられると聞きます。今や「風の盆」と共に全国的に郷土文化を広める運動をされており、西馬音内盆踊りも全国に知れ渡るようになってきました。それだけに需要も増えてきていると言われます。それに「グッズ」としても販売されるなど、これからも作り手の活躍が期待されます。

「一緒に写真でも撮りますか、あやーばあさんだからだめかーあっぱっは」と笑っていました。

私達の古希祝いに、素晴らしい踊りをありがとうございます。特に遠くからの参加者にとっては郷土芸能やこうした華々しいことにふれる機会もなく本当に良かったと感謝しています。(佐藤)

えを請いに行ってももう年だから教えられないと何回行っても断られたと言います。匠の業というものはそうたやすく身につくものではありませんが、そこは押しと努力で我がものにしたアイさんの努力は素晴らしいものです。

「最も難しいのは笠の曲線です。一応紙型はあるのですがそれでもうまくできません」そこは手触りと勘だけなのですというアイさん。

そんなアイさんに師事を求めて修行中のみなさんが、師匠の古希祝いだからと、この盆踊りのステージを買って出てくれたと言うことでした。このお弟子さん達も、他県でのイ







「元過ぎれば・・・」  
とは苦しかったこと  
についていわれるこ  
どのようですの、  
古希の会をよりかえる  
にはふさわしくないかも  
しれません、このごろは  
楽しかったことについて  
まどいになつてきたと思  
い、まだまだと思  
う気持ちとは  
裏腹に、確実  
に古希とい  
トシになつて  
いるんだなあ



の本番を迎えるまで、連絡を  
取り合ったりしてそれな  
りの緊張感もあった  
「古希の祝い」でした  
が、終わって1か月  
近くになりました。

今年「還  
暦祝い」から  
数えて10年目  
になり、私た  
ちももう古希  
かと、4月か  
ら動き始めて、  
9月19・20日

# 古希祝いの 写真を見ながら

会実行委員長  
飯塚和雄

と自分に言い聞かせ  
ています。このよう  
な場合、助かるのは  
写真です。先日送っ  
ていただいた写真で、  
当日のいろいろな場  
面がよみがえります。  
語り合った話、聞か  
せてもらった歌の数々、  
そしてその歌  
に合わせ  
ての踊  
りなどです。

真は、やむを得ず日  
帰りされた4人の方  
たちがおられず残念  
ですが、それぞれ帰  
路につく前の、ちょっ  
びりしんみりした気  
持ちにならせられて  
いる1枚となつてい



るようです。  
濃い影からもわかり  
ますが、この2日間  
は秋晴れに恵まれな  
によりでした。  
忘れてしまわない  
うちのご報告ですが、  
みなさんに送られた  
写真の多くは柴田友  
幸さんからの提供  
です。三脚まできつ  
ちりと持参されての  
撮影でしたので、おかげさまで「古  
希の祝い」という節目の会のなによ  
りの記念になりました。「まどい」  
紙面をお借りして御礼申し上げます。



あと、会場  
アウトの  
2日目、チェック  
このたびの22名のご参加は、「還  
暦祝い」のときの35名には及びませ  
んでしたが、私たちの同期会はたい  
てい20名前後でありましたので、実  
行委員会としましては、  
まずは大台に乗っても  
らったことを喜んでい  
ます。  
返信ハガキや電話  
でのご連絡で、土・日  
であれば参加できたよ  
うの方もおられたよう  
ですが、まだまだ仕事  
に頑張っておられる証  
拠で、本当に頼もしい



「還暦祝い」のときに続いて、佐  
藤宗夫さんにはこのたびも事務局を  
快く引き受けていただき、案内状か  
ら写真発送にいたるまでの諸々の事  
務にご難儀いただきました。おかげ  
さまで思い出多い1泊2日の会とな  
りました。心よりの感謝申し上げます。  
(20・10・17)



## ドタ参加の心境

佐藤芳雄

今回ばかりはほとんど参加を諦めていました。実際に欠席しますとはがきを出していました。9月には、その前々週に実家のはとこの結婚式もあり実はこれにも出席できなかったのです。主治医は「どう変化するかわかりませんので」という。そんな状態だと一晩でも空ける気には慣れなかったのです。

「私のために犠牲になることのないように」という妻は、古希祝いの日が近づくとつれて主治医の言葉を後目に病状は安定してきていました。又同級会とお父さんは切り離せない

と誤解している子供達も、何とか参加させてやりたいと思っていました。

決心したのは前日の夜になってからです。悪いと思いつながら宗夫さんに電話をしました。半分強引です。「キャンセルではないから一人ぐらい何とかなるでしょう!」その日も病院から帰ってからだから夜も9時頃だったと思います。

おかげでみなさんに会うことが出来ました。日頃携帯やPCメールで相談に乗ってくれる孝之助さんに合ったあつたトタン涙をこらえるのがやっとなで言葉も出なかった。自分だけではないとわかっていながら、やっぱり自分中心なのだと反省しきりでした。

結局翌日早々、ここまで来たのに実家にも寄らずに帰ったのですが、思い切って参加して良かった。はな垂れ小僧からの仲間達、大人になってどう暮らしてきたかはべつにして脳裏にしみこんだ深いつながりはとでも消えるものではなく、たまさか合う喜びはひとしおです。無理をしても、幹事さんを困らせても参加して良かったと心から思っています。

ありがとうございます。



## 編集手帳

「古希のお祝い」おめでとうございます。

これも「還暦」と共に人生の節目と言われここまで頑張ってきたことへのお祝いでもあるかと思えます。22名が集いました。高橋孝之助さんや飯塚和雄さんのかかれていたようにみなさんお元気です。残念なことには県外からの参加が今少しだったことでしょうか、いつも顔を見せてくれる関東東京の人たちが参加出来なかったようです。

翌月からは、健康保険も介護保険に続いて年金からの天引きになってしまいました。私うことには変わりはないのですが、頂く年金の額が少なくなってしまうことの方が大きなショックです。

国会ではそれぞれ議員さんが選挙で勝つことばかりしか考えていないようで庶民の不安な気持ちのやり場

「まどい」への御礼ありがとうございます

12月5日

柴田友幸様

武田龍太郎様

「まどい」祝賀会の方からも資金として頂戴いたしました。

心から感謝申し上げます。

もないのが実情です。世界の経済不安の源は金持ちのマナーゲームが根本、迷惑をしているのは一般庶民です。

たとえばの話これから寒くなります。私達は灯油も買うことになりませんが、大金持ちは灯油を買うのではなく灯油を売買する権利を買うのです。汗水垂らしてものを作り、汗水垂らして働いたお金でそれをかう。そんなフツフツのことがどうにかなくなってしまいました。出来ることなら、学のない私達にも割り切れる世の中になってほしいものです。

9月うごまのJA、農協では羽後町産のお米のパッケージを美少女の絵で人気の西又菜さんに依頼して発売することになりました。西又菜さんのブログにも書かれています。その影響が半端でなく注文や問い合わせが殺到して一次ネット販売をストップする羽目にまでなりました。周りの人は「パッケージより中身だろ」と冷たかったのですが、これも時世たとえ一時的にせよ羽後町産のお米の人気が出たことには違いありません。確かに新潟魚沼産のコシヒカリに負けないぐらい美味しいお米です。これを機に販路出来ればいいのですが。

佐藤正二さん、高橋ミチさん、陸ながら良くなりますよう祈ります。